

# トホクのハクサイ栽培方法

発芽適温：20～25℃ 生育適温：15～25℃  
土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

## 1. 作物特性

ハクサイは冷涼で乾燥を好みますから夏まきでの苗作りでは暑さ対策が必要です。また秋の台風対策なども考えねばなりません。それでも秋までに一定の大きさにしておけば、それ以降は特別な管理は不要です。品種的には秋冬向きに病気や暑さに強い「早生」種、高品質でボリュームのある「中生」種、寒さに強く長く畑に置ける「晩生」種、春から夏に収穫する「春まき晩抽」種などがあります。品種特性を理解して使い分ければ長く収穫を楽しめます。また連作対策としては根こぶ病に強い耐病性品種を使うことも有効です。

## 2. タネまき

直接畑にタネをまくこともできますが、ポットにタネをまいて苗を育てるのが良いです。日当たりの良い場所で育て本葉3枚頃に生育の良い株を残して間引きます。

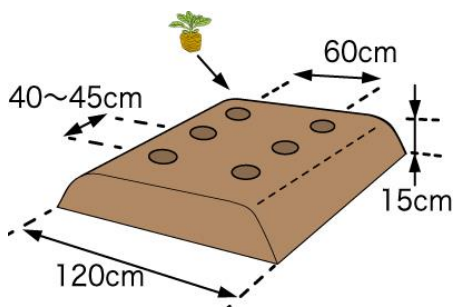


## 3. 植えつけ

連作すると根こぶ病などの土壌病害が発生しますから注意します。



タネまきから約3週間後、本葉5枚目頃が植えつけの適期です。条間は60cm、株間は40cmを基本とし、中生種や晩生種は株間を45cm位広くとります。また春まきではマルチを張り、ビニールトンネルやべた掛け資材を用いて保温します。



## 4. 栽培管理

植えつけから15日目頃と、葉が立ち上がってきた頃の2回、株元に追肥し軽く中耕します。1株あたり化成肥料40～80gを追肥しますが、残暑が厳しい時期の追肥の量は少なめにします。



アブラムシやコナガなどの害虫が発生しやすいので、農薬などを適切に使って防除することも必要です。

## 5. 収穫

球の頭部分を押さえてかたく締まっているようなら収穫適期です。頭を斜めに押し倒して、球と外葉の間の株元に包丁を差し入れ、切り取って収穫します。



中生種や晩生種であれば、12月上旬に外葉をひもでしばっておくと寒さに良く耐え、2月まで畑に置くこともできます。



●栽培例 ●まく時期 ■収かく時期

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冷涼地			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
中間地		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
暖地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

(翌年)